

営農指導全国大会V 柴田さん (JA山形) おきたま

生産者と一丸情熱評価

J A山形おきたま園芸販売課直販担当査役の柴田啓人士(ひろとし)さん(42)が、2月19日に初のオンラインで開催されたJA全中主催の第5回J A営農指導実践全国大会で最優秀賞を獲得した。高齢化などの課題克服に向けたJ Aの園芸事業改革プロジェクトに、単価向上や新商品開発などの実績を示しながら生産者と共に一丸で取り組んだ指導力と情熱が高く評価された。

大会には、北海道・東北 動や成果を発表した。地区代表の柴田さんら、全 柴田さんは、J Aが20国8地区の代表8人が出場 15年に立ち上げた園芸事業改革プロジェクトで、感染対策から、初めて事前 「おきたま統一共選」や、収録の動画で営農指導の活 出荷施設再編による集出荷



リンゴ中生種の出荷目ぞろえ会で、生産者と「おきたま統一共選」の基準などを確認する柴田さん(左) (18年9月、南陽市で)

園芸改革 先導し成果

の効率化とコスト削減、J Aオリジナル商品開発という3本柱の対策を生産者と共に進めた取り組みを発表した。

プロジェクトは、高齢化などによる生産部会員の減少に伴う出荷量の減少、品質格差の拡大、流通コスト増大などの課題克服を目標とし、販売単価のアップや、日本一の生産量を誇るブドウ「デラウェア」に関連する商品を次々と発売するなどの成果を上げた。

柴田さんが特に強調したのは「おきたまブランド」の確立に向け、生産者との情報共有と意識の統一、納得と信頼を得ながら進めることの大切さだった。

地域ごとの生産方法や出荷への考え方の違いを乗り越えるため、数多くの会議や研修会を重ねた。一方で、販売価格が上がったという実績を示し、納得と信

頼を得ることで、一丸となって取り組む機運の醸成を図った。

柴田さんは「今回の受賞は私個人の力ではなく、あくまで生産者・組合員と、手を携えて進めたJ Aへの評価。生産者手取りの最大化を図るというJ Aの基本方針を組合員が理解し、協力を頂くことができた」と話す。

その上で、「一つ一つの取り組みが成果として結び付いていく喜びや困難に立ち向かう勇気を仲間と経験することができ、自身の成長を実感することができた。これからも組合員と協力しながら『おきたまブランド』を確固たるものにする取り組みを続けていきたい」と決意を新たにしている。

J Aの木村敏和組合長は「全国」は名譽なこと。改めて当J A職員のレベルの高さを証明できた。今後も若い職員らが『次は私の出番』との使命感を持ち、われ先にと奮起し、職務に精励するきっかけとなることを期待したい」と話した。全国大会出場者8人には副賞として金の営農指導員バッジが贈られた。

(山形おきたま)

最優秀賞は3人目

県内から2年連続

J A営農指導実践全国大会での県内からの最優秀賞受賞は2年連続3人目で、営農指導員のレベルの高さを示した。16年度の第1回大会ではJ A庄内たがわの佐藤昌幸さん、19年度の第4回大会ではJ A山形市の鈴木公俊さんが、最優秀賞に輝いている。